

術大会. 2015年2月. 東京

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし。
2. 実用新案登録 なし。
3. その他 なし。

**H. 健康危険情報**

報告なし。

## 食物アレルギーの病態に基づいた 新規好塩基球活性化試験の樹立

研究分担者 横関 博雄 東京医科歯科大学大学院皮膚科学分野 教授  
研究協力者 芝間 さやか 東京医科歯科大学大学院皮膚科学分野 大学院生  
宇賀神 つかさ 東京医科歯科大学大学院皮膚科学分野 特任助教

### 研究要旨

従来の好塩基球活性化試験は、即時型アレルギーのアレルゲンの検索において、安全かつ有用な検査であるが、ノンレスポonder好塩基球へは対応できない等の問題がある。本研究では、ノンレスポonderにも対応した新規好塩基球活性化試験の樹立を目指す。近年、マウス好塩基球のメディエーター産生や活性化の制御因子として同定したメタロチオネイン (MT) に着目し、好塩基球活性化試験への応用の可能性を検討した。

MT はヒト好塩基球の活性化・メディエーター産生に重要であり、従来型好塩基球活性化マーカーである CD203c と高い相関性を示した。以上の結果より、MT は新規好塩基球活性化試験の新たな指標となりうると考えられた。ノンレスポonderへの適用の可否については、今後さらに症例数を蓄積して検討する必要がある。

### A. 研究目的

我々はこれまでにマウス好塩基球を用いた検討で、メタロチオネイン (以下、MT と示す) という亜鉛結合性タンパクが好塩基球の活性化を制御することを見出した (Ugajin et al., Molecular Immunology, 2015)。本研究では、ヒト好塩基球においても、マウスと同様に MT が活性化を制御するのかを検証し、さらには MT を指標とした好塩基球活性化試験の有用性を、健常人や加水分解小麦アレルギー患者の好塩基球を用いて検証した。

### B. 研究方法

7 名の健常人から末梢血好塩基球を分離し、まずは MT と IL-4 の発現を Real Time PCR により解析し、次に従来型好塩基球活性化マーカーである CD203c の発現 (定常状態、IgE 刺激下) をフローサイトメトリーにより解析し、これらの相関性を検討した。

さらに遺伝子干渉実験により末梢血好塩

基球における MT の発現をノックダウンし、IL-4 産生能について Real Time PCR にて検討した。

最後に「茶のしずく石鹼」により発症した加水分解コムギアレルギーの患者 7 名より、末梢血好塩基球を分離し、MT と小麦アレルギー重症度との相関性について検証した。

### (倫理面への配慮)

本研究は東京医科歯科大学の倫理審査委員会より承認された研究である (承認番号 1051,1315)。被検者には書面にてインフォームドコンセントを行った後、血液を提供いただいた。

### C. 結果

健常人から末梢血好塩基球を分離し、各個体における MT、IL-4、CD203c の発現レベルを解析し、これらの相関性を検討した。MT は IL-4 と非常に高い相関性を示した。

一方、CD203c とは定常状態では相関性を認めなかったが、IgE 刺激下では高い相関性を示した。7名の健常人の内、1名はノンレスポonderであったが、MT の発現は低かった。

次に、末梢血好塩基球において、MT 遺伝子をノックダウンし、IgE 刺激下における IL-4 の産生について検討したところ、コントロールに比べて MT 遺伝子をノックダウンした好塩基球では IL-4 産生の減弱を認めた。

最後に、実際の即時型アレルギー患者の検体を用い、MT がアレルギー症状の重症度の指標となりうるかどうかを検討した。当科を受診した加水分解コムギアレルギー患者7名を、アナフィラキシーのグレード分類

H. Sampson: *Pediatrics*. 2003; 111; 1601-8. (独立行政法人国立病院機構相模原病院により改変) に従い、軽症群 (グレード 1・2) 3人と重症群 (グレード 3) 4人にわけ、MT の発現を比較したところ、MT と小麦アレルギー症状の重症度とに相関性は見られなかった。

#### D. 考察

末梢血好塩基球において、MT と IL-4 は高い相関性を示し、MT が IL-4 の産生に関与する可能性が考えられた。そこでさらに MT 遺伝子の干渉実験を行ったところ、MT がヒト好塩基球における IgE 刺激依存性の IL-4 産生に重要であることが確認された。

次に、MT がヒト好塩基球の活性化にも関与するかどうかを検証するために、MT と CD203c との相関性について検討したところ、定常状態の CD203c とは相関性を示さなかったが、IgE 刺激後の CD203c の発現誘導と高い相関性を示した。以上の結果より、MT がヒト好塩基球の活性化を制御する可能性、また MT が好塩基球活性化試験の指標となりうる可能性が示唆された。

また、ノンレスポonder好塩基球への適

用の可否についてであるが、本研究で検討をおこなった6名の内、1名がノンレスポonderであったが、MT の発現は低かった。今後さらに症例を蓄積し、検討していく必要があると考えられた。

最後に、MT が好塩基球のメディエーター産生や活性化を制御することから、即時型アレルギーの重症度と相関する可能性を考え、加水分解コムギアレルギー患者において、少数例での検討ではあるが、MT とアレルギー症状の重症度との相関性を解析したところ、明らかな相関は認めなかった。こちらも、今後さらに症例を蓄積して検討する必要があると考える。

#### E. 結論

MT は、ヒト好塩基球における IgE 刺激依存性の活性化やメディエーター産生に必要な制御因子であることが分かった。さらに MT は CD203c の発現と高い相関性を示し、好塩基球活性化試験の新たな指標となりうる可能性が示唆された。ノンレスポonderへの適用の可否については今後さらに症例の蓄積が必要であると考えられる。

#### F. 研究発表

##### (1) 論文発表

1. Yokozeki H. A nucleic acid-based medication for allergic skin diseases. *J Dermatol Sci*. 2014; 75(2): 75-81.
2. Yamamoto T, Yokozeki H. Subcutaneous sarcoidal granuloma underlying prokeratosis in a patient with sarcoid-lymphoma syndrome. *Eur J Dermatol*. 2014 (in press).
3. Yamamoto T, Yokozeki H. Scalp sarcoidosis mimicking organoid nevus. *Eur J Dermatol*. 2014 (in press).
4. Ueno M, Aoto T, Mohri Y, Yokozeki H, Nishimura EK. Coupling of the radiosensitivity of melanocyte stem cells to

their dormancy during the hair cycle. *Pigment Cell Melanoma Res.* 2014; 27(4): 540-551.

5. Shibama S, Igawa K, Munetsugu T, Fukuyama K, Nishizawa A, Takayama K, Yokozeki H. A case of sarcoidosis presenting as livedo. *Ann Dermatol.* 2014; 26(6): 773-774.
6. Nishizawa A, Igawa K, Teraki H, Yokozeki H. Diffuse disseminated lichenoid-type cutaneous sarcoidosis mimicking erythroderma. *Int J Dermatol.* 2014; 53(8): e369-370.
7. Inazawa M, Satoh T, Yokozeki H. Hyperkeratotic variant of inflammatory disseminated superficial porokeratosis with lichenoid reaction and extensive amyloid deposition. *Int J Dermatol.* 2014; 53(2): e94-95.
8. Igawa K, Konishi M, Moriyama Y, Fukuyama K, Yokozeki H. Erythroderma as drug eruption induced by intravesical mitomycin C therapy. *J Eur Acad Dermatol Venereol.* 2014 (in press).
9. Igawa K, Kokubu C, Yusa K, Horie K, Yoshimura Y, Yamauchi K, Suemori H, Yokozeki H, Toyoda M, Kiyokawa N, Okita H, Miyagawa Y, Akutsu H, Umezawa A, Katayama I, Takeda J. Removal of reprogramming transgenes improves the tissue reconstitution potential of keratinocytes generated from human induced pluripotent stem cells. *Stem Cells Transl Med.* 2014; 3(9): 992-1001.
10. Hashimoto T, Satoh T, Furuya A, Kataoka N, Yokozeki H. Kimura's disease with prurigo lesions treated with systemic indomethacin. *J Eur Acad Dermatol Venereol.* 2014; 28(9): 1260-1262.
11. Dobashi K, Akiyama K, Usami A, Yokozeki H, Ikezawa Z, Tsurikisawa N, Nakamura Y, Sato K, Okumura J. Japanese Guideline for Occupational Allergic Diseases 2014. *Allergol*

*Int.* 2014; 63(3): 421-442.

## (2) 学会発表

1. 芝間 さやか, 宇賀神 つかさ, 横関 博雄. 化粧品による健康被害. 当科を受診した小麦アレルギー患者のまとめ. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会. 京都市. 2014年5月9-11日.
2. 端本 宇志, 佐藤 貴浩, 横関 博雄. 好塩基球とIgEにより誘発されるマウス痒疹反応におけるそう痒と病変部表皮内神経伸長. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会. 京都市. 2014年5月9-11日.
3. 宇賀神 つかさ, 横関 博雄. 好塩基球が関わる日常的な皮膚アレルギーを診る! 亜鉛は好塩基球を左右する. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 仙台市. 2014年11月22日.
4. 宇賀神 つかさ. 亜鉛は好塩基球を抑制する. 第78回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京都. 2015年2月21日.

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし

## H. 健康危険情報

なし

## 食物依存性運動誘発アナフィラキシー検査における診断精度の向上に関する検討

研究分担者 松尾 裕彰 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 病態解析治療学  
教授  
研究協力者 横大路 智治 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 病態解析治療学  
助教

### 研究要旨

食物依存性運動誘発アナフィラキシー (food-dependent exercise-induced anaphylaxis: FDEIA) は、抗原特異 IgE 抗体が関与する食物アレルギーである。症状誘発には原因食物摂取に加えて、運動負荷や非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID) の服用などの二次的要因が必要である。これまでの研究で、小麦による FDEIA の主要抗原として  $\gamma$ -gliadin,  $\omega$ 5-gliadin, 高分子量 glutenin を同定し、それらの抗原コンポーネントを用いた特異 IgE 検査が、成人小麦 FDEIA の診断に有効であることを明らかにした。本研究では、加水分解小麦による FDEIA 患者における、各種 gliadin 特異 IgE 抗体の保有率を明らかにするとともに、FDEIA の原因食物として 2 番目に多いエビの抗原解析を行い、2 種の新規抗原候補を同定した。

### A. 研究目的

食物依存性運動誘発アナフィラキシー (FDEIA) は、抗原特異 IgE 抗体が関与する食物アレルギーであるが、症状誘発には原因食物の摂取に加えて、運動負荷や非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID) の服用などの二次的要因が必要である。本邦における FDEIA の原因食物は、小麦、エビの順に多い。これまでの研究で、小麦による FDEIA に特異性の高い原因抗原として  $\gamma$ -gliadin,  $\omega$ 5-gliadin, 高分子量 glutenin を同定し、それらの抗原コンポーネントを用いた抗原特異 IgE 検査が成人小麦 FDEIA の診断に有効であることを明らかにした。本研究では、加水分解小麦含有石鹼により発症した FDEIA 患者および小麦の経口摂取により発症した FDEIA 患者の血清中  $\alpha/\beta$ -,  $\gamma$ -,  $\omega$ 1,2-,  $\omega$ 5-gliadin 特異 IgE 抗体の保有率を調べた。さらに、エビ FDEIA の原因抗原

は解析されておらず未だ不明な点が多い。そこで、エビ FDEIA の原因抗原解析も行った。

### B. 研究方法

各種 gliadin のリコンビナントタンパク質は、大腸菌を用いて発現させ精製した。精製 gliadin を ELISA プレートに固相化し、血清を加えインキュベートした。結合した IgE はガラクトシダーゼ標識抗ヒト IgE 抗体を用いて検出した。9 名の通常型小麦 FDEIA および 51 名の加水分解小麦型 FDEIA 患者血清を測定した。

エビ摂取と運動負荷を組み合わせた誘発試験の結果により確定診断された 2 名のエビ FDEIA 患者血清を抗原解析に用いた。

エビの外殻を除去したむき身に 40 mM Tris-HCl (pH 8.0)を加え氷上でホモジナイズすることによりエビタンパク質を抽出した。SDS-PAGE および 2 次元電気泳動にて分離後、患者血清 IgE を用いたウエスタンブロー

ットを行い、IgE が結合するタンパク質を検出した。エビ抗原をゲルから切り出し、トリプシン消化後、質量分析計 (AB SCIEX TripleTOF® 5600+) を用いて解析した。得られたペプチド情報を ProteinPilot™ ソフトウェアを用いて甲殻類のタンパク質データベースを検索することにより抗原を同定した。

各種クロマトグラフィーを用いて粗精製したエビタンパク質を用いて、7 名のエビ FDEIA 患者血清 IgE の結合をウエスタンブロット法により調べた。

### (倫理面への配慮)

本研究は本学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。

## C. 結果

(1) 小麦 FDEIA 患者における各種 gliadin 特異 IgE 抗体の保有率

通常型小麦 FDEIA 患者 (CO-WDEIA) の  $\alpha/\beta$ -、 $\gamma$ -、 $\omega 1,2$ -、 $\omega 5$ -gliadin 特異 IgE の保有率は、それぞれ、33, 44, 33, 78%であった。加水分解小麦型 FDEIA (HMW-WDEIA) は、それぞれ 26, 47, 26, 14%であった (図 1)。

(2) エビ FDEIA の抗原解析

エビアレルギー患者の中には特定のエビにのみ反応し、アレルギー症状を示す患者が認められることから、今回クルマエビ、バナメイエビ、ブラックタイガー、タイショウエビの 4 種のエビを用いて解析した。その結果、4 種類のエビ全てにおいて、患者 1 の血清 IgE は 70 kDa の分子量を有するタンパク質に結合した。患者 2 の血清 IgE は、バナメイエビの 40 kDa のタンパク質に強く結合した。

IgE の結合が認められた 70 kDa および 40 kDa タンパク質の同定を行うために、2次元電気泳動を利用したプロテオーム解析を試みた。タンパク質のスポットを切り出し、

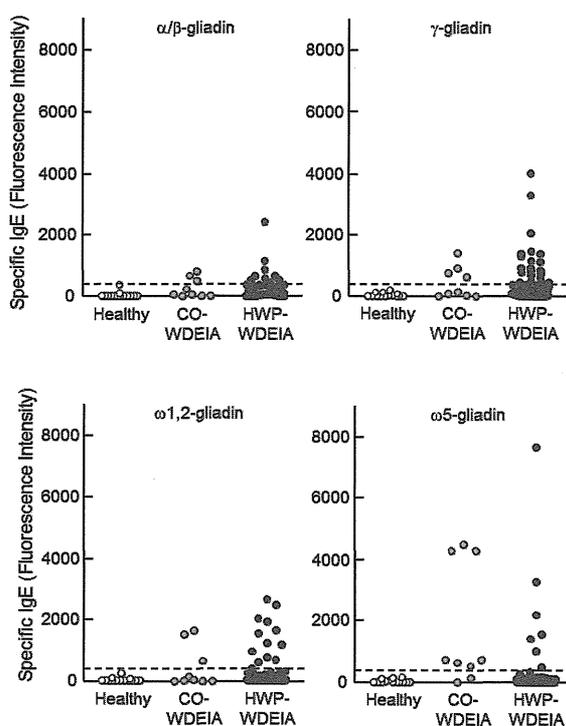


図 1 各種 gliadin 特異 IgE 抗体価

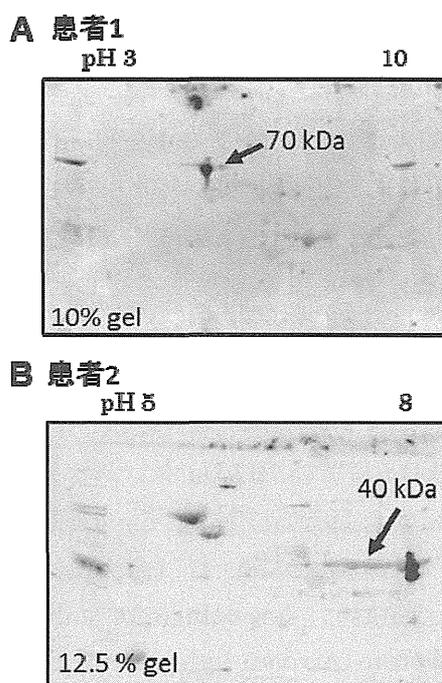


図 2 ウエスタンブロットによるエビ抗原解析

トリプシン消化した後、質量分析計にて MS/MS 解析を行った結果、70 kDa タンパク質は、コクヌストモドキ (*Tribolium castaneum*) の Muscle-specific protein 300 (Nesprin-1) と相同性の高いタンパク質であることが分かった。Nesprin-1 と相同性が高

い甲殻類のタンパク質をデータベース検索すると、アメリカンロブスター (*Homarus americanus*) の筋タンパク質である p75 protein がヒットした。この結果から、患者 1 の原因抗原はエビの p75 protein であると推測された。一方、患者 2 の血清 IgE が結合した 40 kDa タンパク質について同様の解析を行った結果、バナメイエビ(*Litopenaeus Vannamei*) の fructose 1,6-bisphosphate aldolase であることが明らかとなった。

#### D. 考察

通常型小麦 FDEIA においては、 $\omega$  5-gliadin が主要抗原として報告されている。今回の結果においても、78%の患者が $\omega$  5-gliadin 特異 IgE を保有しておりこれまでの報告と一致した。一方、加水分解型小麦 FDEIA では、 $\gamma$ -gliadin が主要抗原として報告されているが、 $\gamma$ -gliadin 特異 IgE の保有率は 47%であった。すなわち、加水分解小麦 WDEIA では、 $\alpha/\beta$ -や  $\omega$  1,2-gliadin も原因抗原となることが示唆された。これらの結果から、 $\omega$  5-gliadin に加えて $\alpha/\beta$ -、 $\gamma$ -、 $\omega$  1,2-gliadin 特異 IgE の測定することでより精度の高い診断が可能となると考えられた。

エビ FDEIA の抗原解析について、今回同定した 40kDa および 70 kDa タンパク質は、これまでにエビ即時型アレルギーの原因抗原として同定されている tropomyosin, arginine kinase, sarcoplasmic calcium binding protein, myosin light chain とは異なっていた。この結果は、エビ FDEIA の原因抗原は通常の即時型エビアレルギーとは異なる抗原が原因で起こることを示唆するものである。したがって、これらの新規抗原特異 IgE の測定は、エビ FDEIA の特異的診断に応用できると期待される

#### E. 結論

小麦 FDEIA の gliadin 特異 IgE の保有率を明らかにした。さらに、エビ FDEIA 患者の原因抗原解析を行い、70 kDa Muscle-specific protein 300 (Nesprin-1)、および、40 kDa の fructose 1,6-bisphosphate aldolase を抗原候補として同定した。これらの抗原コンポーネントに対する特異 IgE 検査が、FDEIA 診断における有益な情報となると考えられた。

#### F. 研究発表

##### (1) 論文発表

1. Yokooji T, Nouma H, Matsuo H. Characterization of ovalbumin absorption pathways in the rat intestine, including the effects of aspirin. *Biol Pharm Bull*. 2014;37(8):1359-65.
2. Brockow K, Kneissl D, Valentini L, Zelger O, Grosber M, Kugler C, Werich M, Darsow U, Matsuo H, Morita E, Ring J. Using a gluten oral food challenge protocol to improve diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. *J Allergy Clin Immunol*. in press.
3. Yokooji T, Okamura Y, Chinuki Y, Morita E, Susumu H, Hiragun M, Hide M, Matsuo H. Prevalences of specific IgE to wheat gliadin components in patients with wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. *Allergol Int*. in press.

##### (2) 学会発表

1. 松尾裕彰. 食品のプロが語る食物抗原小麦アレルギー。第 31 回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会。名古屋市。2014 年 6 月 28 日。
2. 横大路智治, 農間仁美, 松尾裕彰. 卵白アルブミンの消化管吸収機構の解明とアスピ

リンによる吸収増加機構の解明. 日本膜学会第 36 年会. 東京都. 2014 年 5 月 12-13 日.

3. 早瀬佑紀, 平野太暉, 農間仁美, 横大路智治, 松尾裕彰. 小麦グルテン感作における加水分解処理と感作経路の影響. 日本皮膚科学会第 128 回山陰・第 24 回島根合同地方会. 出雲市. 2014 年 8 月 30-31 日.
4. 平野太暉, 横大路智治, 松尾裕彰. 卵白アルブミン感作に及ぼすアスピリンの影響. 第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中四国支部学術大会. 広島市. 2014 年 11 月 8-9 日
5. 羽村光, 横大路智治, 松尾裕彰. 小麦グリアジンの消化管吸収に及ぼすアスピリンの影響. 第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中四国支部学術大会. 広島市. 2014 年 11 月 8-9 日
6. 飯島茂子, 伊藤倫子, 真壁郁, 村上佳大, 横大路智治, 松尾裕彰. 梅干しによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例. 第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 仙台市. 2014 年 11 月 21 日-11 月 23 日.
7. 横大路智治, 農間仁美, 松尾裕彰. 卵白アルブミンの消化管吸収機構とアスピリンの影響解析. 膜シンポジウム 2014. 神戸市. 2014 年 11 月 26-27 日.

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし

#### H. 健康危険情報

なし

## V. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 著書 (平成 24 年度)

| 著者氏名 | 論文タイトル名  | 書籍全体の<br>編集者名            | 書 籍 名                           | 出版社名 | 出版地 | 出版年  | ページ     |
|------|--|--------------------------|---------------------------------|------|-----|------|---------|
| 相原道子 | 3) 蕁麻疹 ⑦蕁麻疹：食物アレルギーの関与. III章 多彩な皮膚アレルギー疾患を理解する | 塩原哲雄ゲスト編集, 宮地良樹, 清水宏常任編集 | 皮膚科サブスペシヤリティーシリーズ 1冊でわかる皮膚アレルギー | 文光堂  | 東京  | 2012 | 170-171 |

## 論文 (平成 24 年度)

| 発表者氏名   | 論文タイトル名   | 発表誌名                    | 巻号         | ページ       | 出版年  |
|---|---|-------------------------|------------|-----------|------|
| Shinoda J, Inomata N, Chinuki Y, Morita E, Ikezawa Z.   | Case of allergy due to hydrolyzed wheat proteins in commercial boiled pork.   | J Dermatol.             | 39         | 724-726   | 2012 |
| Chang Y, Wang T, Gao S, Morita E.   | Novel allergen from the freshwater clam and the related allergy.  | J Dermatol.             | 39         | 672-674   | 2012 |
| Morita E, Chinuki Y, Takahashi H, Nabika T, Yamasaki M, Shiwaku K.  | Prevalence of wheat allergy in Japanese adults.   | Allergol Int.           | 61         | 101-105   | 2012 |
| Chinuki Y, Kaneko S, Dekio I, Takahashi H, Tokuda R, Nagao M, Fujisawa T, Morita E.                       | CD203c expression-based basophil activation test for diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis.   | J Allergy Clin Immunol. | 129        | 1404-1406 | 2012 |
| Takahashi H, Matsuo H, Chinuki Y, Kohno K, Tanaka A, Maruyama N, Morita E.                                | Recombinant high molecular weight-glutenin subunit-specific IgE detection is useful in identifying wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis complementary to recombinant omega-5 gliadin-specific IgE test. | Clin Exp Allergy.       | 42         | 1293-1298 | 2012 |
| Chinuki Y, Morita E.  | Wheat-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis Sensitized with Hydrolyzed Wheat Protein in Soap.  | Allergol Int.           | 61         | 529-537   | 2012 |
| Chinuki Y, Takahashi H, Dekio I, Kaneko S, Tokuda R, Nagao M, Fujisawa T, Morita E.                       | Higher allergenicity of high molecular weight hydrolysed wheat protein in cosmetics for percutaneous sensitization.   | Contact Dermatitis.     | 68         | 86-93     | 2013 |
| Kohno K, Matsuo H, Takahashi H, Niihara H, Chinuki Y, Kaneko S, Honjoh T, Horikawa T, Mihara S, Morita E. | Serum gliadin monitoring extracts patients with false negative results in challenge tests for the diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis.  | Allergol Int.           | 62         | 229-238   | 2013 |
| Inomata N, Morita A, Sawaki H, Aihara M   | Case of rice allergy induced by epicutaneous sensitization to rice bran due to handling rice bran pickles   | J Dermatol              | 39<br>(11) | 1079-1080 | 2012 |
| 山川有子, 大砂博之, 相原道子, 池澤善郎  | コチニール色素による即時型アレルギー患者におけるアレルギー検査の分析およびアレルギー蛋白質の解析  | 臨皮                      | 66         | 8-13      | 2012 |

|   |  |   |       |           |                  |
|---|--|---|-------|-----------|------------------|
| 猪又直子, 相原道子  | 成人の食物アレルギーの特徴, 原因食物, 自然史   | Visual Dermatology<br>最新! 食物アレルギーの診断と治療 | 11    | 272-279   | 2012             |
| 松倉節子, 板垣康治, 相原道子  | パパイン酵素入り洗顔料による経皮感作とワサビのアナフィラキシー合併例   | Visual Dermatology<br>最新! 食物アレルギーの診断と治療 | 11    | 292-294   | 2012             |
| 松倉節子, 相原道子, 池澤善郎  | 食物アレルギーと経皮感作   | 小児科                                     | 53    | 347-357   | 2012             |
| 松倉節子, 相原道子, 池澤善郎  | 話題の疾患と治療 経皮感作による食物アレルギー  | 感染 炎症 免疫                                | 42    | 75-78     | 2012             |
| 長島真由美, 猪又直子, 相原道子   | 「茶のしずく R 石鹸」使用者に発症した小麦依存性運動誘発アナフィラキシー  | 治療                                      | 94    | 1872-1879 | 2012             |
| 長島真由美, 相原道子   | これが口腔アレルギー症候群だ!  | 皮膚アレルギーフロンティア                           | 10    | 201       | 2012             |
| 岡田里佳, 猪又直子, 相原道子  | 加水分解コムギの経皮感作による小麦依存性運動誘発アナフィラキシー   | 臨床免疫・アレルギー                              | 58    | 85-93     | 2012             |
| 岡田里佳, 澤木晴名, 相原道子  | クロモグリク酸ナトリウム内服で症状が増強されたエビアレルギーの1例  | 日小児皮会誌                                  |       |           | in press<br>2013 |
| Kijima A, Murota H, Takahashi A, Arase N, Yang L, Nishioka M, Yamaoka T, Kitaba S, Yamauchi-Takahara K, Katayama I. | Prevalence and Impact of Past History of Food Allergy in Atopic Dermatitis.  | Allergol Int.                           | 62(1) | 105-12    | 2012             |
| Yamaoka T, Azukizawa H, Tanemura A, Murota H, Hirose T, Hayakawa K, Shimazu T, Wada N, Morii E, Katayama I.         | Toxic epidermal necrolysis complicated by sepsis, haemophagocytic syndrome, and severe liver dysfunction associated with elevated interleukin-10 production. | Eur J Dermatol.                         | 22(6) | 815-7     | 2012             |
| Hanafusa T, Igawa K, Kotobuki Y, Kitaba S, Tani M, Katayama I.  | Systemic lymphadenopathy with systemic sclerosis and Sjögren's syndrome: A case report.  | J Dermatol.                             | 40(2) | 124-5     | 2013             |
| Yang L, Serada S, Fujimoto M, Terao M, Kotobuki Y, Kitaba S, Matsui S, Kudo A, Naka T, Murota H, Katayama I.        | Periostin Facilitates Skin Sclerosis via PI3K/Akt Dependent Mechanism in a Mouse Model of Scleroderma.   | PLoS One.                               | 7     | e41994    | 2012             |
| Tanemura A, Kotobuki Y, Itoi S, Takata T, Sano S, Katayama I.   | Positive link between STAT3 activation and Th17 cell infiltration to the lesional skin in vitiligo vulgaris.   | J Dermatol Sci.                         | 67(3) | 207-9     | 2012             |

|  |   |                            |         |         |      |
|--|---|----------------------------|---------|---------|------|
| Murota H, Izumi M, Abd El-Latif MI, Nishioka M, Terao M, Tani M, Matsui S, Sano S, Katayama I.   | Artemin causes hypersensitivity to warm sensation, mimicking warmth-provoked pruritus in atopic dermatitis.   | J Allergy Clin Immunol.    | 130 (3) | 671-682 | 2012 |
| Schmitt J, Spuls P, Boers M, Thomas K, Chalmers J, Roekevisch E, Schram M, Allsopp R, Aoki V, Apfelbacher C, Bruijnzeel-Koomen C, Bruin-Weller M, Charman C, Cohen A, Dohil M, Flohr C, Furue M, Gieler U, Hooft L, Humphreys R, Ishii HA, Katayama I, Kouwenhoven W, Langan S, Lewis-Jones S, Merhand S, Murota H, Murrell DF, Nankervis H, Ohya Y, Oranje A, Otsuka H, Paul C, Rosenbluth Y, Saeki H, Schuttelaar ML, Stalder JF, Svensson A, Takaoka R, Wahlgren CF, Weidinger S, Wollenberg A, Williams H. | Towards global consensus on outcome measures for atopic eczema research: results of the HOME II meeting.  | Allergy.                   | 67(9)   | 1111-7  | 2012 |
| Kimura A, Terao M, Kato A, Hanafusa T, Murota H, Katayama I, Miyoshi E.  | Upregulation of N-acetylglucosaminyltransferase-V by heparin-binding EGF-like growth factor induces keratinocyte proliferation and epidermal hyperplasia. | Exp Dermatol.              | 21(7)   | 515-9   | 2012 |
| Otsuka K, Kotobuki Y, Shiraishi H, Serada S, Ohta S, Tanemura A, Yang L, Fujimoto M, Arima K, Suzuki S, Murota H, Toda S, Kudo A, Conway SJ, Narisawa Y, Katayama I, Izuhara K, Naka T.  | Periostin, a matricellular protein, accelerates cutaneous wound repair by activating dermal fibroblasts.  | Exp Dermatol.              | 21(5)   | 331-6   | 2012 |
| Kawamura T, Ogawa Y, Nakamura Y, Nakamizo S, Ohta Y, Nakano H, Kabashima K, Katayama I, Koizumi S, Kodama T, Nakao A, Shimada S.   | Severe dermatitis with loss of epidermal Langerhans cells in human and mouse zinc deficiency.   | J Clin Invest.             | 122 (2) | 722-32  | 2012 |
| Kotobuki Y, Tanemura A, Yang L, Itoi S, Wataya-Kaneda M, Murota H, Fujimoto M, Serada S, Naka T, Katayama I.   | Dysregulation of melanocyte function by Th17-related cytokines: significance of Th17 cell infiltration in autoimmune vitiligo vulgaris.                   | Pigment Cell Melanoma Res. | 25(2)   | 219-30  | 2012 |
| Kijima A, Murota H, Matsui S, Takahashi A, Kimura A, Kitaba S, Lee JB, Katayama I.   | Abnormal axon reflex-mediated sweating correlates with high state of anxiety in atopic dermatitis.  | Allergol Int.              | 61(3)   | 469-73  | 2012 |

|  |   |                         |         |           |      |
|--|---|-------------------------|---------|-----------|------|
| Hanafusa T, Azukizawa H, Matsumura S, Katayama I.  | The predominant drug-specific T-cell population may switch from cytotoxic T cells to regulatory T cells during the course of anticonvulsant-induced hypersensitivity. | J Dermatol Sci          | 65(3)   | 213-9     | 2012 |
| Kitaba S, Murota H, Terao M, Azukizawa H, Terabe F, Shima Y, Fujimoto M, Tanaka T, Naka T, Kishimoto T, Katayama I.                    | Blockade of interleukin-6 receptor alleviates disease in mouse model of scleroderma.  | Am J Pathol.            | 180 (1) | 165-76    | 2012 |
| 片山 一朗  | 特集/最新のアレルギー診療 アレルギー疾患診断・治療ガイドライン活用のポイント アトピー性皮膚炎  | 臨床と研究                   | 89(3)   | 291-7     | 2012 |
| 楊伶俐、室田浩之、片山一朗  | 新規細胞外マトリックス、ペリオスチンとアレルギー炎症での組織リモデリング  | 臨床免疫・アレルギー科             | 58 (5)  | 582-7     | 2012 |
| 片山 一朗  | カレントトピックス：重症薬剤性皮膚障害とその分子疫学的予防   | 日本医師会雑誌                 | 141 (7) | 1537      | 2012 |
| 杉山 晃子, 岸川 禮子, 西江 温子, 竹内 聡, 下田 照文, 岩永 知秋, 西間 三馨, 古江 増隆  | 茶石鹼使用開始後に発症した小麦によるアナフィラキシーおよび小麦依存性運動誘発アナフィラキシーの12例  | アレルギー                   | 60      | 1532-1542 | 2011 |
| 杉山晃子, 岸川禮子   | 加水分解コムギにより生じた小麦アレルギーについて  | 臨床免疫・アレルギー科             | 58 (1)  | 77-84     | 2012 |
| 西村 景子, 佐野 晶代, 松永 佳世子.  | 多種類の野菜・果物に症状を呈した花粉・食物アレルギー症候群の1例.   | Visual Dermatology      | 11 (3)  | 300-301   | 2012 |
| 松永 佳世子   | 化粧品は安全か？－加水分解コムギ末含有石鹼によるコムギアレルギーに学ぶ－.   | Aesthetic Dermatology   | 22 (3)  | 163-168   | 2012 |
| 矢上 晶子, 松永 佳世子  | 加水分解コムギ含有石鹼によるコムギアレルギーの疫学と社会的意義.  | アレルギー・免疫                | 20 (2)  | 224-232   | 2013 |
| Fukutomi Y, Sjölander S, Nakazawa T, Borres P M, Ishii T, Nakayama S, Tanaka S, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakamura H, Akiyama K | Clinical relevance of IgE to rGly m 4 in diagnosis of adult soybean allergy   | J Allergy Clin Immunol. | 129 (3) | 860-863   | 2012 |
| Tomita K, Sakashita M, Hirota T, Tanaka S, Masuyama K, Yamada T, Fujieda S, Miyatake A, Hizawa N, Kubo M, Nakamura Y, Tamari M.        | Variants in the 17q21 asthma susceptibility locus are associated with allergic rhinitis in the Japanese population  | Allergy                 | 68(1)   | 92-100    | 2013 |

|   |  |                                   |            |           |      |
|---|--|-----------------------------------|------------|-----------|------|
| Yamamoto H, Yamada T, et al.  | Efficacy of prophylactic treatment with montelukast and montelukast plus add-on loratadine for seasonal allergic rhinitis                                | Allergy<br>Asthma Proc            | 33(2)      | e17-22    | 2012 |
| Okiyama N, Sugihara T, Oida T, Ohata J, Yokozeki H, Miyasaka N, Kohsaka   | T lymphocytes and muscle condition act like seeds and soil in a murine polymyositis model.   | H.Arthritis<br>Rheum.             | 64<br>(11) | 3741-9    | 2012 |
| Satoh T, Ikeda H, Yokozeki H  | Acrosyringeal Involvement of Palmoplantar Lesions of Eosinophilic Pustular Folliculitis.   | Acta Derm<br>Venereol.            | 93 (1)     | 99        | 2013 |
| Sekine R, Satoh T, Takaoka A, Saeki K, Yokozeki H   | Anti pruritic effects of topical crocmiton, capsaicin, and a corticosteroid on pruritogen-induced scratching behavior.                                   | Exp<br>Dermatol.                  | 21 (3)     | 201-204   | 2012 |
| Ito Y, Satoh T, Takayama K, Miyagishi C, Walls AF, Yokozeki H   | Basophil recruitment and activation in inflammatory skin diseases.   | Allergy                           | 66         | 1107-1113 | 2011 |
| Ugajin T, Satoh T, Kanamori T, Aritake K, Urade Y, Yokozeki H   | FcεRI, but not FcγR, signals induce prostaglandin D2 and E2 production from basophils.   | Am J Pathol.                      | 17         | 775-82    | 2011 |
| Okiyama N, Kitajima T, Ito Y, Yokozeki H, Miyasaka N, Kohsaka H   | Addition of the collagen binding domain of fibronectin potentiates the biochemical availability of hepatocyte growth factor for cutaneous wound healing. | J Dermatol                        | 61         | 215-217   | 2011 |
| Namiki T, Tanemura A, Valencia JC, Coelho SG, Passeron T, Kawaguchi M, Vieira WD, Ishikawa M, Nishijima W, Izumo T, Kaneko Y, Katayama I, Yamaguchi Y, Yin L, Polley EC, Liu H, Kawakami Y, Eishi Y, Takahashi E, Yokozeki H, Hearing VJ. | AMPkinase-related kinase NUA2 affects tumor growth, migration, and clinical outcome of human melanoma.   | Proc Natl<br>Acad Sci U S<br>A    | 108        | 6597-6602 | 2011 |
| Hosoya K, Satoh T, Yamamoto Y, Saeki K, Igawa K, Okano M, Moriya T, Imamura O, Nemoto Y, Yokozeki H   | Gene silencing of STAT6 with siRNA ameliorates contact hypersensitivity and allergic rhinitis.   | Allergy                           | 66         | 124-131   | 2011 |
| Matsushima Y, Satoh T, Yamamoto Y, Nakamura M, Yokozeki H   | Distinct roles of prostaglandin D2 receptors in chronic skin inflammation.   | Mol<br>Immunol                    | 49         | 304-310   | 2011 |
| Yamagishi H, Mochizuki Y, Hamakubo T, Obata K, Ugajin T, Sato S, Kawano Y, Minegishi Y, Karasuyama H  | Basophil-derived mouse mast cell protease 11 induces microvascular leakage and tissue edema in a mast cell-independent manner.                           | Biochem<br>Biophys Res<br>Commun. | 415        | 709-713   | 2011 |

|   |  |                           |     |         |      |
|---|--|---------------------------|-----|---------|------|
| Yamamoto Y, Otani S, Hirai H, Nagata K, Aritake K, Urade Y, Narumiya S, Yokozeke H, Nakamura M, Satoh T   | Dual functions of prostaglandin D2 in murine contact hypersensitivity via DP and CRTH2.  | Am J Pathol.              | 179 | 302-314 | 2011 |
| Inoue Y, Adachi A, Ueno M, Fukumoto T, Nishitani N, Fujiwara N, Yamada Y, Ohyama B, Tsuruta D, Hashimoto T.   | Atypical subacute cutaneous lupus erythematosus presenting as lichen planus pemphigoides with autoantibodies to C-terminus of BP180, desmoglein 1 and SS-A/Ro antigen. | J Dermatol.               | 39  | 960-962 | 2012 |
| 足立厚子.   | アレルギー患者における皮膚テスト（パッチテスト、プリックテスト、皮内テスト）と負荷テスト.  | Visual Dermatology        | 11  | 382-387 | 2012 |
| 足立厚子、清水秀樹、堀川達弥、田中昭、Sigrid Sjorander, 森山達哉.  | 大豆アレルギーにおけるGly m4、Gly m5、Gly m6特異IgEの重要性およびGly m5、Gly m6サブユニット特異IgEについて.   | JEDCA.                    | 6   | 60-66   | 2012 |
| 足立厚子.   | 口腔アレルギー症候群.  | Mbderma.                  | 6   | 375-385 | 2012 |
| Ishii K, Hiragun M, Matsuo H, Hiragun T, Hide M.  | Remission of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis after the cessation of hydrolysed wheat-containing soap usage.   | Acta Derm Venereol.       | 92  | 490-491 | 2012 |
| Takeuchi K, Mashimo Y, Shimojo N, Arima T, Inoue Y, Morita Y, Sato K, Suzuki S, Nishimuta T, Watanabe H, Hoshioka A, Tomiita M, Yamaide A, Watanabe M, Okamoto Y, Kohno Y, Hata A, Suzuki Y.                        | Functional variants in the thromboxane A2 receptor gene are associated with lung function in childhood-onset asthma.   | Clin Exp Allergy.         | 43  | 413-24  | 2013 |
| Itazawa T, Adachi Y, Ito Y, Higuchi O, Mochizuki H, Shimojo N, Inoue T.   | Aerosol characteristics of admixture of budesonide inhalation suspension with a beta2-agonist, procaterol.   | Allergol Int.             | 62  | 131-135 | 2013 |
| Morita Y, Iwakura H, Ohtsuka H, Kohno Y, Shimojo N.   | Milk allergy in the neonatal intensive care unit: comparison between premature and full-term neonates.   | Asia Pac Allergy.         | 3   | 35-41   | 2013 |
| Ochiai S, Shimojo N, Morita Y, Tomiita M, Arima T, Inoue Y, Nakaya M, Uehara N, Sato Y, Mori C, Suzuki Y, Kohno Y.  | Cytokine biomarker candidates in breast milk associated with the development of atopic dermatitis in 6-month-old infants.  | Int Arch Allergy Immunol. | 160 | 401-408 | 2013 |
| Yamaide F, Undarmaa S, Mashimo Y, Shimojo N, Arima T, Morita Y, Hirota T, Fujita K, Miyatake A, Doi S, Sato K, Suzuki S, Nishimuta T, Watanabe H, Hoshioka A, Tomiita M, Yamaide A, Watanabe M, Okamoto Y, Kohno Y, | Association study of matrix metalloproteinase-12 gene polymorphisms and asthma in a Japanese population.   | Int Arch Allergy Immunol. | 160 | 287-296 | 2013 |

|  |  |                           |          |           |      |
|--|--|---------------------------|----------|-----------|------|
| Tamari M, Hata A, Suzuki Y.  |  |                           |          |           |      |
| Yonekura S, Okamoto Y, Shimojo N, Yamamoto H, Sakurai D, Horiguchi S, Hanazawa T, Inoue Y, Arima T, Tomiita M, Kohno Y.  | The onset of allergic rhinitis in Japanese atopic children: a preliminary prospective study.   | Acta Otolaryngol.         | 132      | 981-987   | 2012 |
| Inoue Y, Ochiai H, Hishiki T, Shimojo N, Yoshida H, Kohno Y.   | Food allergy after cord blood stem cell transplantation with tacrolimus therapy in two patients who developed veno-occlusive disease.  | Allergol Int.             | 61       | 497-499   | 2012 |
| Kamemura N, Tada H, Shimojo N, Morita Y, Kohno Y, Ichioka T, Suzuki K, Kubota K, Hiyoshi M, Kido H.  | Intrauterine sensitization of allergen-specific IgE analyzed by a highly sensitive new allergen microarray.  | J Allergy Clin Immunol.   | 130      | 113-121   | 2012 |
| Inoue H, Mashimo Y, Funamizu M, Yonekura S, Horiguchi S, Shimojo N, Kohno Y, Okamoto Y, Hata A, Suzuki Y.  | Association of the MMP9 gene with childhood cedar pollen sensitization and pollinosis.   | J Hum Genet.              | 57       | 176-183   | 2012 |
| Nakano T, Shimojo N, Okamoto Y, Ebisawa M, Kurihara K, Hoshioka A, Yamaguchi K, Ito K, Fujisawa T, Kameda M, Suehiro Y, Ogura H, Shibata R, Suzuki S, Takahashi Y, Ikeda M, Kohno Y. | The use of complementary and alternative medicine by pediatric food-allergic patients in Japan.  | Int Arch Allergy Immunol. | 159      | 410-415   | 2012 |
| 渡邊裕子、赤星千絵、関戸晴子、田中幸生、田中和子、下条直樹.   | 調理による卵アレルギーの変性.  | 食衛誌                       | 53       | 98-104    | 2012 |
| Fukunaga A, Shimizu H, Tanaka M, Kikuzawa A, Tsujimoto M, Sekimukai A, Yamashita J, Horikawa T, Nishigori C.   | Limited influence of aspirin intake on mast cell activation in patients with food-dependent exercise-induced anaphylaxis: comparison using skin prick and histamine release tests. | Acta Derm Venereol.       | 92       | 480-483   | 2012 |
| Hatakeyama M, Fukunaga A, Shimizu H, Oka M, Horikawa T, Nishigori C.   | Drug fever due to S-carboxymethyl-L-cysteine: demonstration of a causative agent with patch tests.   | J Dermatol.               | 39       | 555-556   | 2012 |
| Ogoshi M, Horikawa T.  | Rapid improvement of psoriasis in diabetes subsequent to glucose lowering.   | Int J Dermatol.           | In press |           | 2013 |
| Washio K, Bito T, Ono R, Horikawa T, Nishigori C.  | Syringomatous carcinoma on the leg.  | J Dermatol.               | 39       | 1041-1043 | 2012 |

著書 (平成 25 年度)

| 著者氏名         | 論文タイトル名  | 書籍全体の編集者名            | 書籍名   | 出版社名       | 出版地 | 出版年  | ページ     |
|--------------|--|----------------------|---|------------|-----|------|---------|
| 森田栄伸         | 食べたあと運動するとショックになる食物アレルギーがあると聞きましたがどのようなものですか？                          | 宮地良樹                 | 続・患者さんから浴びせられる 皮膚疾患100の質問～達人はどう答え、どう対応するか～  | メディカルレビュー社 | 東京  | 2013 | 54-55   |
| 森田栄伸<br>千貫祐子 | Molecular allergology(MA)によるアレルギー特異的IgE抗体価の測定は職業性蕁麻疹(職業性接触蕁麻疹)の診断に有用か？ | 協和企画                 | 職業性アレルギー疾患診療ガイドライン2013                      | 協和企画       | 東京  | 2013 | 96-97   |
| 森田栄伸         | 食物依存性運動誘発アナフィラキシー  | 海老澤元宏                | 症例を通じて学ぶ年代別食物アレルギーのすべて                      | 南山堂        | 東京  | 2013 | 212-213 |
| 森田栄伸         | 経皮感作とアレルギーマーチ  | 宮地良樹                 | WHAT' S NEW in 皮膚科学2014-2015                | メディカルレビュー社 | 東京  | 2014 | 56-57   |
| 森田栄伸         | 食物依存性運動誘発アナフィラキシー(FDEIA)診断の決め手—FDEIAの診断に迷うときの解決法は？                     | 宮地良樹                 | 苦手な外来皮膚疾患100の解決法～その時達人はどのように苦手皮膚疾患を克服したか？～. | メディカルレビュー社 | 東京  | 2014 | 60-61   |
| 片山一朗         | 蕁麻疹 蕁麻疹の類症 71.アトピー性皮膚炎と蕁麻疹の関係診る・わかる・治す                                 | 古江増隆                 | 皮膚科臨床アセット16 蕁麻疹・血管性浮腫 パーフェクトマスター            | 中山書店       | 東京  | 2013 | 306-311 |
| 片山一朗         | 膠原病および類似疾患 9.Sjogren症候群  | 瀧川雅浩<br>渡辺晋一         | 皮膚疾患の最新の治療2013-2014                         | 南江堂        | 東京  | 2013 | 90      |
| 片山一朗         | 炎症性皮膚疾患 第12章 膠原病とその類症  | 橋本 隆<br>岩月啓氏<br>照井 正 | 標準皮膚科学                                      | 医学書院       | 東京  | 2013 | 158-185 |
| 片山一朗         | 様々な皮膚疾患と関連領域 第33章 粘膜疹とその関連疾患   | 橋本 隆<br>岩月啓氏<br>照井 正 | 標準皮膚科学                                      | 医学書院       | 東京  | 2013 | 547-557 |
| 片山一朗         | 掌跖膿疱症 第1章 各疾患の診断と治療 I.湿疹と類症  | 横関博雄<br>片山一朗         | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス—鑑別と治療のポイント—              | 医薬ジャーナル    | 東京  | 2013 | 50-54   |
| 片山一朗         | アトピー性皮膚炎 ポケットサイズのステロイド   | 宮坂信之                 | 診療マニュアル                                     | 新興医学出版社    | 東京  | 2013 | 148-153 |
| 千貫祐子         | 肉アレルギー( $\alpha$ -gal)   | 海老澤元宏                | 症例を通じて学ぶ年代別食物アレルギーのすべて                      | 南山堂        | 東京  | 2013 | 224-225 |
| 千貫祐子         | 小麦アレルギーの多彩な症状と対応抗原   | 宮地良樹                 | WHAT' S NEW in 皮膚科学2014-2015                | メディカルレビュー社 | 東京  | 2014 | 50-51   |
| 佐藤貴浩         | 紅斑の発症メカニズム   | 古江増隆<br>横関博雄         | 皮膚科臨床アセット18「紅斑症と痒疹群」                        | 中山書店.      | 東京  | 2013 | 7-11    |
| 高山かおる        | 成人Still病に伴う紅斑の症状・診断・治療   | 古江増隆<br>横関博雄         | 皮膚科臨床アセット18「紅斑症と痒疹群」                        | 中山書店.      | 東京  | 2013 | 91-95   |

|              |   |              |                      |         |    |      |         |
|--------------|---|--------------|----------------------|---------|----|------|---------|
| 岡 恵子         | 点状紅斑の概念・病態・診断・治療                                      | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 149-152 |
| 沢田泰之         | 手掌紅斑の概念・病態・診断・治療                                      | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 153-157 |
| 佐藤貴浩         | 痒疹の定義・分類  | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 166     |
| 宇賀神つかさ       | 痒疹発症における好塩基球の役割.                                      | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 167-171 |
| 佐藤貴浩         | 急性痒疹・亜急性痒疹の概念・病態・症状.                                  | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 172-173 |
| 西澤 綾         | 急性痒疹・亜急性痒疹の診断・治療・生活指導.                                | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 174-178 |
| 横関博雄         | 慢性痒疹の定義・分類・症状・病理・診断・鑑別診断                              | 古江増隆<br>横関博雄 | 皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」 | 中山書店.   | 東京 | 2013 | 179-183 |
| 佐藤貴浩         | 第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 1.皮膚瘙痒症                       | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 12      |
| 高山かおる        | 第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 2.接触皮膚炎                       | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 14      |
| 井川 健         | 第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 6.ビダール苔癬.                     | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 28      |
| 佐藤貴浩         | 第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 9.多形慢性痒疹.                     | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 41-43   |
| 沢田泰之         | 第1章 各疾患の診断と治療. III.物理的障害および薬剤による疾患 1.下腿潰瘍、静脈瘤、慢性色素性紫斑 | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 70-78   |
| 高山かおる        | 第1章 各疾患の診断と治療. III.物理的障害および薬剤による疾患 6.胼胝・鶏眼            | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 97-99   |
| 西澤 綾         | 第1章 各疾患の診断と治療. III.物理的障害および薬剤による疾患 8.扁平苔癬             | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 104-107 |
| 高山かおる        | 第1章 各疾患の診断と治療. IV.老化に伴う皮膚変化 6.爪の変化                    | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 127-129 |
| 高河慎介<br>沢田泰之 | 第1章 各疾患の診断と治療. VIII.デルマトローム 1.糖尿病性皮膚症                 | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス   | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 206-211 |

|      |  |              |                    |         |    |      |         |
|------|--|--------------|--------------------|---------|----|------|---------|
| 井川 健 | 第2章 外用剤の種類と使い方. I.ステロイド外用剤   | 横関博雄<br>片山一朗 | 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス | 医薬ジャーナル | 東京 | 2013 | 224-230 |
| 井川 健 | 肉芽腫性皮膚疾患<br>サルコイドーシス・<br>他の肉芽腫. Vリ<br>ポイド類壊死症.<br>38. リポイド類壊死<br>症の治療と経過 | 横関博雄<br>片山一朗 | 皮膚科臨床アセット 14       | 中山書店    | 東京 | 2013 | 221-223 |

## 論文 (平成 25 年度)

| 発表者氏名   | 論文タイトル名  | 発表誌名                | 巻号     | ページ     | 出版年  |
|---|--|---------------------|--------|---------|------|
| Sano Y, Masuda K, Tamagawa-Mineoka R, Matsunaka H, Murakami Y, Yamashita R, Morita E, Katoh N                       | Thymic stromal lymphopoietin expression is increased in the horny layer of patients with atopic dermatitis.  | Clin Exp Immunol    | 171(3) | 330-337 | 2013 |
| Morita E, Chinuki Y, Takahashi H  | Recent advances of in vitro tests for the diagnosis of food-dependent exercise-induced anaphylaxis.  | J Dermatol Sci      | 71     | 155-159 | 2013 |
| Yokooji T, Kurihara S, Murakami T, Chinuki Y, Takahashi H, Morita E, Harada S, Ishii K, Hiragun K, Hide M, Matsuo H | Characterization of Causative Allergens for Wheat-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis Sensitized with Hydrolyzed Wheat Proteins in Facial Soap.           | Allergol Int        | 62(4)  | 435-445 | 2013 |
| Takahashi H, Chinuki Y, Tanaka A Morita E   | Laminin $\gamma$ -1 and collagen $\alpha$ -1 (VI) chain are galactose- $\alpha$ -1,3-galactose-bound allergens in beef.                                      | Allergy             | 69     | 199-207 | 2014 |
| Kohno K, Matsuo H, Takahashi H, Niihara H, Chinuki Y, Kaneko S, Honjoh T, Horikawa T, Mihara S, Morita E            | Serum gliadin monitoring extracts patients with false negative results in challenge tests for the diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. | Allergol Int.       | 62 (2) | 229-238 | 2013 |
| Iseki C, Kawanami T, Tsunoda T, Chinuki Y, et al.   | Chronic headaches and sleepiness caused by facial soap (containing hydrolyzed wheat proteins)-induced wheat allergy.   | Intern Med.         | 53     | 151-154 | 2014 |
| Chinuki Y, Takahashi H, et al.  | Higher allergenicity of high molecular weight hydrolysed wheat protein in cosmetics for percutaneous sensitization.  | Contact Dermatitis. | 68     | 86-93   | 2013 |
| 森田栄伸  | 蕁麻疹・即時型アレルギーの臨床診断の注意点.   | Visual Dermatology  | 12(4)  | 373-377 | 2013 |
| 森田栄伸, 千貫祐子, 松尾裕彰  | 経皮感作による小麦アレルギー.  | 皮膚アレルギーフロンティア       | 11(3)  | 17-20   | 2013 |
| 千貫祐子, 森田栄伸  | 皮膚アレルギー検査のスキルアップ 「Molecular Allergology」時代の到来.   | MB Derma            | 203    | 19-24   | 2013 |

|  |   |                            |         |           |      |
|--|---|----------------------------|---------|-----------|------|
| 高橋 仁, 千貫祐子, 森田栄伸   | 牛肉アレルギーとセツキシマブアレルギー.  | 臨床皮膚科                      | 67(増5)  | 14-17     | 2013 |
| 千貫祐子, 森田栄伸   | 加水分解小麦含有石鹼による全身性小麦アレルギー.  | アレルギー・免疫                   | 20(6)   | 884-891   | 2013 |
| 千貫祐子, 森田栄伸   | 加水分解小麦による小麦アレルギー.   | MB Derma                   | 205     | 53-59     | 2013 |
| 森田栄伸   | 食物依存性運動誘発アナフィラキシー.  | Modern Physician           | 33(8)   | 1016-1018 | 2013 |
| 千貫祐子, 高橋 仁, 森田栄伸   | 牛肉アレルギー患者20例の臨床的および血清学的解析.  | 日本皮膚科学会雑誌                  | 123(9)  | 1807-1814 | 2013 |
| 足立厚子, 田中 昭, 千貫祐子, 森田栄伸   | エビアレルギーにおける70kDa蛋白の新規アレルゲンとしての可能性について.  | アレルギー                      | 62(8)   | 960-961   | 2013 |
| 千貫祐子, 森田栄伸   | 皮膚即時型アレルギー疾患の診断に必要な基礎知識.  | 日本皮膚科学会雑誌                  | 123(12) | 2219-2225 | 2013 |
| 松木真吾, 千貫祐子, 新原寛之, 森田栄伸   | 診断に好塩基球活性化マーカーCD203c測定が有用であった豆乳アナフィラキシーの1例.   | 西日本皮膚科                     | 75(6)   | 496-498   | 2013 |
| 千貫祐子, 森田栄伸   | 食物アレルギーに対する低アレルゲン食とオマリズマブの試み.   | 日本皮膚科学会雑誌                  | 123(13) | 2603-2605 | 2013 |
| 千貫祐子, 森田栄伸   | 抗EGFR抗体製剤等による副作用.   | 日本皮膚科学会雑誌                  | 123(13) | 2693-2695 | 2013 |
| 千貫祐子, 高橋 仁, 森田栄伸   | セツキシマブと $\alpha$ -gal IgE.  | アレルギー・免疫                   | 20(12)  | 1838-1842 | 2013 |
| 千貫祐子, 伊藤和行, 武田真紀子, 竹内 薫, 高橋 仁, 森田栄伸  | セツキシマブによるアナフィラキシーショックの4例— $\alpha$ -gal特異的IgE検出による回避の可能性—.  | 日本皮膚科学会雑誌                  | 124(2)  | 179-183   | 2014 |
| 森田栄伸, 千貫祐子, 高橋 仁   | 牛肉による蕁麻疹は抗がん剤の副作用を予知している.   | 日皮協ジャーナル                   | 36(2)   | 93-96     | 2014 |
| 森田栄伸   | 食物依存性運動誘発アナフィラキシー—病態と治療の最前線とその実際—.  | Medical Practice           | 31(2)   | 299-302   | 2014 |
| 森田栄伸, 千貫祐子, 高橋 仁   | 蕁麻疹～牛肉による蕁麻疹はセツキシマブのアナフィラキシーを予知している～.   | アレルギー・免疫                   | 21(3)   | 465-580   |      |
| Inomata N, Okazaki F, Moriyama T, Nomura Y, Yamaguchi Y, Honjo T, Kawamura Y, Narita H, Aihara M | Identification of peamaclein as a marker allergen related to systemic reactions in peach allergy. | Ann Allergy Asthma Immunol | 112     | 175-183   | 2014 |
| 池田信昭, 伊藤香世子, 相原道子  | オレンジアレルギーオレンジアレルギー.   | 皮膚病診療                      | 35(2)   | 153-156   | 2013 |
| 岡田里佳, 澤城晴名, 相原道子   | クロモグリク酸ナトリウム内服で症状が増強されたエビアレルギーの1例.  | 日小皮膚会誌                     | 32(2)   | 143-147   | 2013 |